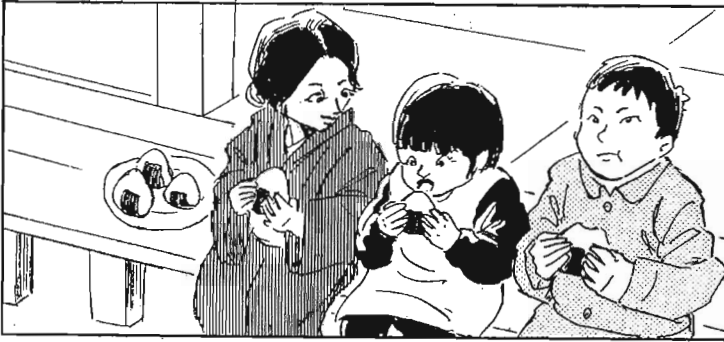


田中彫刻記

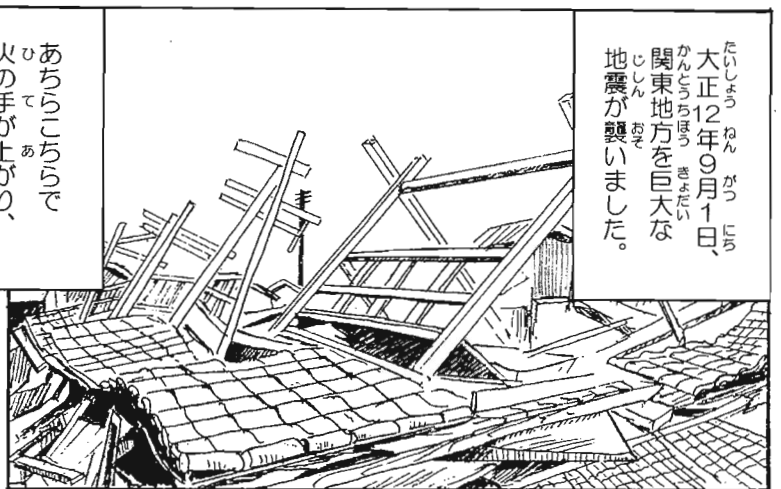
でんちゅうちょうこくき

こどもたち
第十六話 ~子供達~

Takashi
作 ©いとうたかし



あちらこちらで
火の手が上が
り、
たくさんの方が
犠牲になりました。



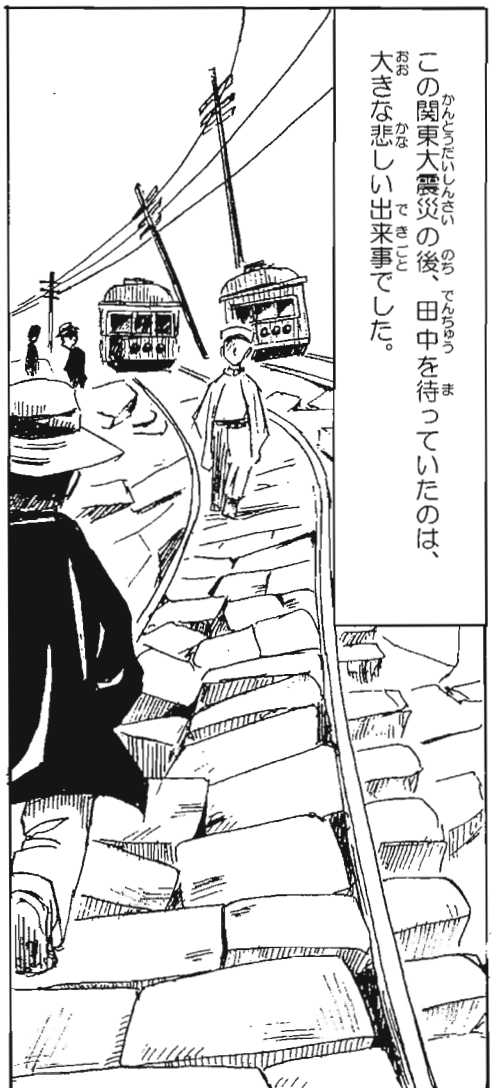
大正12年9月1日、
関東地方を巨大な
地震が襲いました。



田中と花代の
必死の看病にも
かわらず、
容態は日に日に
悪くなりました。



長女の幾久代、長男の俊郎、そして次女の
京子が、次々と肺結核にかかってしまったのです。



この関東大震災の後、田中を待っていたのは、
大きな悲しい出来事でした。

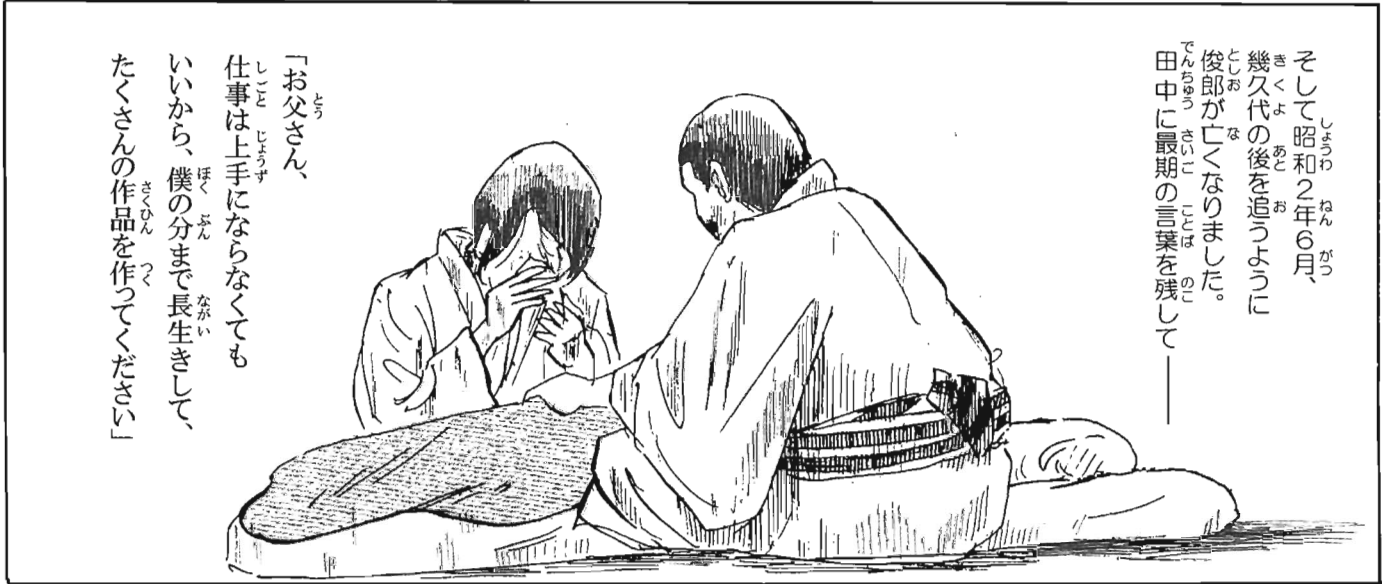
大正15年9月、
幾久代は19才の若さで
亡くなりました。



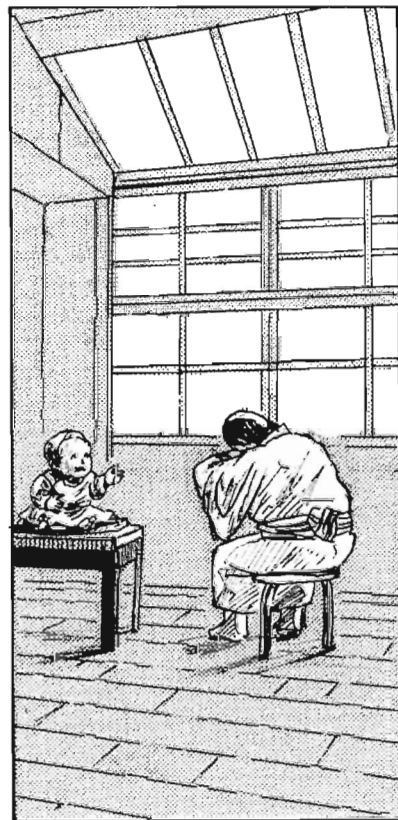
この頃に作られた「新春」
という作品には、田中の
小さな命を
いつくしむ心が
込められています。



そして昭和2年6月、
幾久代の後を追うように
俊郎が亡くなりました。
田中に最期の言葉を残して――



「お父さん、
仕事は上手にならなくても
いいから、僕の分まで長生きして、
たくさん作品を作ってください」



続く不幸に、
田中は失意の底に
明け暮れていました。

